明治44年創立　100周年

東京都済生会中央病院

# Tokyo SAISEIKAI Chuo

2011. 夏

No.60

ご自由にお持ちください。

## 東日本大震災の被災地へ5月、6月にそれぞれ医療チームを派遣しました。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

（関連記事：P6～P7）

ストレッチを施す新井技師長代理

中村副院長からのメッセージ　2頁
専門外来のご案内①
IBD（炎症性腸疾患）外来　3頁
JKAの補助金で超音波診断装置を配備　3頁
第32回いきいき健康教室から
うつ病をめぐって　4～5頁
気仙沼市での医療救護活動に参加して　6～7頁
22年度患者満足度調査の報告　8～9頁
専門外来のご案内②　フットケア外来　10頁
新任医師のご紹介　11～12頁

# 宮城県気仙沼市での医療救護活動に参加して

総務課
鈴木　寛

東日本大震災にて被災に遇われました方々に対し心よりお見舞い申し上げます。さてその甚大な被害を受けた県のひとつ宮城県の気仙沼市にて、当院の医療救護班として活動してまいりましたので、その状況をご報告致します。

派遣要請は、震災後に登録しておきました東京都病院協会を通じて全日本病院協会より依頼が有りました。派遣職種は、医師、看護師、理学療法士（又は作業療法士）、事務員の計4名以上のチームとし、派遣期間は5月1日以降の3泊4日、派遣先は宮城県気仙沼市、活動内容は原則的には被災地の避難所等における医療支援と書かれておりました。早速、院長を中心に職員派遣を決定するとともに、各部門より人選が行われました。

その後は慌しく準備に入り、4月中に現地で活動された病院を紹介していただき電話連絡等で活動の情報収集、また気仙沼市へ電話を掛け活動内容の確認、さらにはインターネットで情報収集等を行い、あっと言う間に時間は経過しました。

当院は救急車を所有しておりませんので、移動手段は個人の自家用車を用いることにしました。活動初日の5月1日（日）、午前8時に病院を出発しました(写真①)。ゴールデンウィーク中でしたが、東北自動車道路は比較的順調に流れておりました。それでも病院から宮城県気仙沼市まで約7時間半を要しました。気仙沼市内に入ると集合場所近くの気仙沼港が見えてきて、その津波の影響を目の当たりにして、思わず車を停めて暫くたたずんでしまいました。テレビのニュースでは見ていましたが、改めてその地震・津波の恐ろしさを全身で感じ、言葉を失いました(写真②③)。

集合時間は午後5時、場所は「気仙沼市健康管理センター すこやか」でした。建物内には医療支援チームの他にも、ボランティア受付事務、地元気仙沼市の活動チーム等 たくさんの方々が所狭しと場所を見つけてミーティング等を行っていました。我が済生会チームもその中の1室に入ると、全国から集まった医療派遣チーム（それぞれ独自の災害ジャケットを着用）が集合しておりました(写真④⑤)。当時の進行役は、東京都庁（福祉保健局 医療政策課）の課長が行っており、各活動場所での報告、全体の伝達事項等が行われておりました。当院の活動場所を確認すると「気仙沼市立本吉病院と特別養護老人ホーム春圃苑」担当と書かれておりました(写真⑥)。

2日目。午前8時に朝のミーティングに参加し、同じ気仙沼市立本吉病院で活動を行う北海道旭川医大チーム、東京都医療派遣チーム 等と顔合わせを行い、早速、現地へ向かいました。

この市立本吉病院は、津波により1階フロアの160㎝位まで海水に浸かってしまったそうで、地域住民の皆さんが清掃作業を行い綺麗にしたとの記事が掲示されていました(写真⑦)。勿論 外来カルテも流され、レントゲン撮影機、CTスキャンやエレベーター等も海水で使えなくなってしまったとの事です。また、常勤医師2名が退職して医師不在となり、全国から集まった医療チームで何とか診療を行っている病院でした。当院からは塚田副院長が診療にあたりましたが、糖尿病、高血圧、胃潰瘍、逆流性食道炎など慢性疾患の患者さんが主体であったこと、また急性疾患としては肺炎をはじめとした呼吸器疾患が圧倒的に多く、2名の患者さんを精密検査、入院設備がある市立気仙沼病院に転送したとのことでした(写真⑧)。

3日目・4日目。同市内の特別養護老人ホーム春圃苑にて、診療チームとリハビリチームとに分かれ、入所者に声をかけて体の具合等を聞いて回りました。緊張を強いられる環境での生活のため、筋肉が硬直し、可動訓練ストレッチが必要な入所者が数多く見られました(写真⑨)。

今回当院が担当した被災地での医療支援は避難所等の巡回診療ではありませんでしたが、被災者に対する支援はどの場所においても同様に必要であると感じました（気仙沼市本吉地区で

**当院が派遣した医療チーム**

**第1班**
派遣期間：平成23年5月1日～4日
派遣地域：宮城県気仙沼市
メンバー：塚田　信廣（医師・副院長）
佐藤　由野（看護師）
新井　保久（理学療法士）
鈴木　寛（事務員）

**第2班**
派遣期間：平成23年6月5日～9日
派遣地域：岩手県下閉伊郡山田町
メンバー：鳥海　史樹（医師）
星　まき子（看護師）
古川　和子（看護師）
長谷川晃一（薬剤師）
阿部　正（事務員）

は当時上下水道の復旧はされておらず、自衛隊の給水車で水を配っていました）。地域のたくさんの方々からお話を聞かせてもらい、地震・津波の恐ろしさを教えていただいたことが強く心に残っておりますが、お話しくださった皆さんはとても元気で前向きで、逆に我々が元気をいただきました。一刻も早い復旧を、経済活動も医療体制も含めて安心して暮らせる生活環境の回復を心よりお祈りいたします。

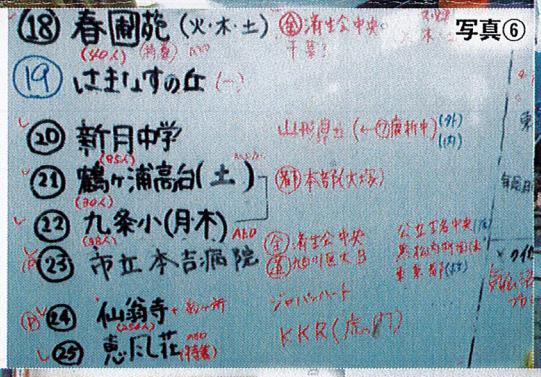
写真①

写真②

写真③

写真④

写真⑤



写真⑥

沼病院
仙吉
気本

『住民の力で守ろう』

浸水被害 100人が清掃奉仕

写真⑦

写真⑧

写真⑨